

ラインの向こう側

～ 留置所体験記 その8 ～

茶ーリトル(ペンネーム)

前回のあらすじ

友達と服を盗み逮捕された。僕は20歳で、あとは未成年。僕だけ違う場所に連れて行かれ、留置場生活が始まった。10日間の拘留が決定……。

東京地検から戻った日、檻のみんなと色々話した。ゆうじさん、連さんは20日拘留に突入中。にんにんさんは僕よりも数日前にここへ来たそうだ。捕まえる前の生活はバラバラ。そんな人たちが今、1つの檻の中。

セカンドステージのメンバー

僕、ゆうじさん、連さん、にんにんさん

でも、やっぱり関係ないんだ、この檻の中じゃあ。外の世界ってさ、無意識のうちに、他人の仕事柄とかライフスタイル、言動や外見だとかを意識して、見たり話したり接したりすることがあるんだよなあ。いや、ある程度は、そうなっちゃうのはごく自然な事だと思う。「あの人恐～い」「かっこいい～」「ダセ～」みたいな感じか？

そう、そういった感覚はこの檻の中にある。僕が、一番はじめにゆうじさんを見て、「恐いなあ」って感情を抱いたのもそんな感じだ。でも、外の世界って、そんな感情がもっともっと膨らんで、自らをシャットアウトしたり、先入観や偏見の塊でコミュニケーションをとったり、はたまたコミュニケーション不全に陥ったり、自分の存在を確認する事で精一杯になってたりする事もあるんだよね。それは、不安だから。紛れも無く、僕は僕なはずなのに、五感から入り込んでくる他人のデータが、単なる新鮮なデータが、不意に絶対的なものに思えてしまい、時には、自分自身のアイデンティティーをも揺るがす存在になっちゃう事もあると思うんだよね。これは、人間的な強さ弱さとかじゃない。ただ、誰もが持ってる「不安」に、さらに拍車がかかっちゃうんだろう。そ

んで、なんとかそんな状況を打開する為に、人はあまりにも高い壁を築いちゃうんだと思う。

相手の顔なんか見えやしない。どどまる事を知らないコミュニケーション媒体の進化？のあげくが、例えば、メールとかインターネットとかでしょ？もう、便利とかじゃなくて、口や耳そのものに成り代わっちゃってる人もいるし。

なんだか、話が長々としちゃったけどさ、僕が言いたかった事、感じた事、ってのはね、変な話、檻の中の方が素っ裸な感じがしたんだよ。ケータイやインターネットが無い以前に、壁もなけりゃ偏見もない、いちいち相手を確認する事もない。もちろん、外の世界だって基本的にそんな事しないよ。しないけど、さっきも言った様に、無意識のうちにそんな事してる、って事も檻の中じゃなかった。

例えば、ぼくがバンドマン、ゆうじさんはヤクザ、連さんはサラリーマン、でも、そんな事はどーでもいいんだ。そりゃあ、「外ではこんな事してましたよ」みたいな身の上話はしたりするけど、「僕はヤクザと会話している」とかそんな感覚は全くないんだ。年上のおじさんと話してるっつー感じぐらい。ちょっとおっかないおっさん！坊主頭のおっさん！

なんだかいい感じだった。うそ臭い大人の礼儀とか社交辞令なんて全く必要ない。もちろん、僕より年上のゆうじさんたち（みんな僕より年上なんだ）への最低の礼儀（敬語とかね）は、僕は心得てたつもりだけど、雰囲気はまるで中高生の修学旅行！ けっこう前にもそんな事言ったと思うけど、本当にそんな感じだから正直楽しかった。

テレビニュースじゃ、犯罪者はただの犯罪者、鬼畜、人でなし、と淡々と報道されるだけだけど、こうして自分もその側に立って、そこで、その側にいる人達と接していると、決してそんな事ねえんじゃないか？ って思ったよ。だってそうでしょ？ 人間を一言で言い表すなんて無理でしょ？

僕の中にうっすらと思い描いていた、いや、思い描かれていた幻想は、ここで崩壊した。誰でも、犯罪者だって鬼畜だって人でなしだって、心から笑いあえる。涙を流せる、枕投げできる、便箋に絵を描いたり詩を書いたりできるんだ。悪いことしたら反省できるんだ。

そんな事を、夜、ふとんの中でぼんやり思っていたら、涙がでてきた。

明日から、取り調べ期間、10日拘留スタート。

（つづく・・・）